

38. 矢倉岳 (神奈川県西部 標高 870m)

矢倉岳はなんと言っても、9月下旬から10月中旬にかけての、タカ(特にサシバ)の渡りにつきます。春、東南アジアから繁殖のため渡って来て、全国の里山で子育てを終え、秋一斉に越冬地を目指します。山頂で待つと、どこからともなく集まったタカの集団が頭上で大きく旋回し、上昇気流に乗り最高点に達した所で西に進路をとり、まさに富士を目指し飛翔していく様は圧巻で感動的です。“元気で来年もまた来いよ”と声を掛けたくくなります。

矢倉岳の山頂を目指すにはいくつかルートがありますが、タカの渡りの観察にはなるべく早い時間に山頂に立ちたい為、バス利用の場合、矢倉沢からのルートが時間的に早いでしょう。ただ、標高差が600m弱あるので注意が必要です。車利用の場合は万葉公園まで入りそこから山頂を目指す、標高差はわずか150m程度で済みます。

矢倉沢バス停でバスを降り、すぐ道を右折しちょっと行くと矢倉沢本村の公民館の広場があります。ここで登山前の準備をすれば良いでしょう。この辺り、懐かしい里山の雰囲気を残し、子供の頃のトンボ取りや魚すくいに遊び興じた頃を思い出します。

道標に沿い、舗装されたちょっと急な登りの農道をしばらく進みます。秋から早春にかけモズ・ホオジロ・ジョウビタキなどに会えるでしょう。また、ノスリが旋回

しているかもしれません。

農道が終わり、杉林の中の登山道はジグザグの急な道です。シジュウカラ・ヤマガラ・ヒガラなどのカラ類にエナガ・コゲラの混じった群れ、また、ジェーとカケスのだみ声も。杉林を過ぎ雑木林、カヤトの尾根道に出ればもう頂上です。頂上は周りをカヤトに囲まれた草原、天気が良ければ、箱根の外輪山(金時山・明神ヶ岳)その向うに神山、そして西には美しい富士の眺めが...

頂上ではお茶などを沸かし、のんびり“タカ見”の見物をしましょう。仰向けに寝転がって、青い空に吸い込まれるように上昇していくタカを見ていると、自分も一緒に帆翔している気分になれるかも知れません。タカはサシバ・ハチクマ・ノスリ、ハヤブサ・チゴハヤブサ・クマタカ、稀にミサゴなども飛来します。タカ以外にもアマツバメ・ヒメアマツバメなどの飛翔も見ら



酒匂川河畔からの矢倉岳

コースタイム 3時間

矢倉沢～水道タンク～矢倉岳～山伏平～地藏堂
地形図：1:25,000 関本 案内図：箱根(昭文社)

季節

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----

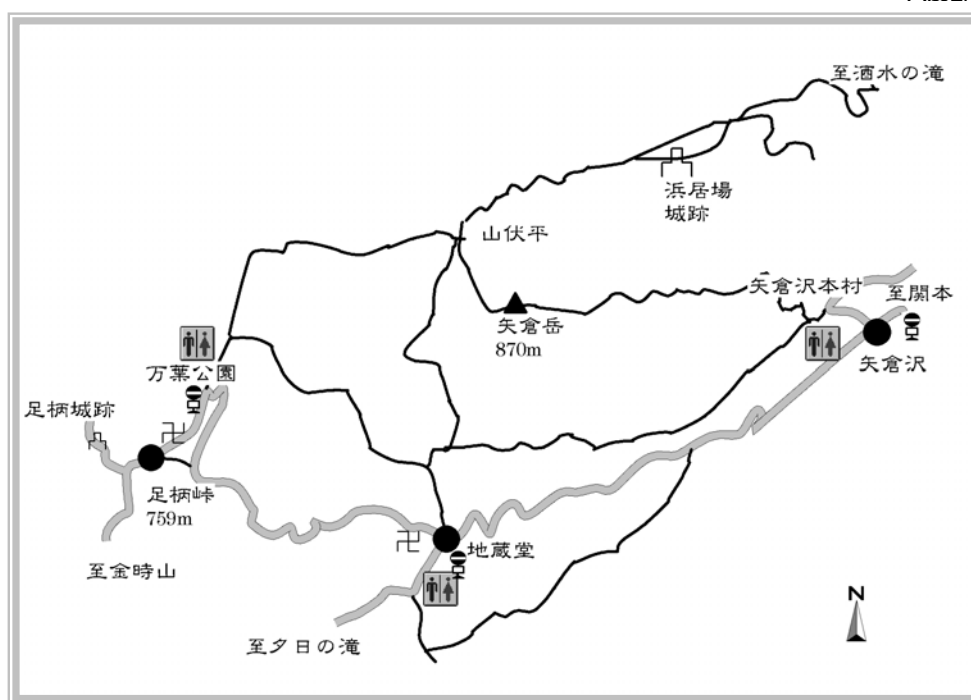
れるでしょう。頂上付近の樹木にはヒガラなどがやって来て忙しく枝移りをしています。

タカの渡りは、気象条件に大きく左右されますので、タイミングが悪いと全く見られないときもあります。その時は潔くあきらめ、“またの機会に”といたしましょう。トンボや蝶などを観察するのにも一興かもし

れません。

帰りは万葉公園に下りそこからバスに乗ります。また、万葉ファミリコースあるいは足柄古道で地蔵堂へ行く道もあります。さらに、山伏平から直接、地蔵堂へ下るコースもありますが、沢を徒渉する地点があり増水時は注意が必要です。バスの本数が少ないので事前調査は忘れずに。

（渡部 徹）



観察できた鳥

10月上旬タカの渡りの頃

ミサゴ・ハチクマ・トビ・ノスリ・サシバ・クマタカ・チゴハヤブサ・チョウゲンボウ・コジュケイ・キジバト・アオバト・ヒメアマツバメ・アマツバメ・アオグラ・コグラ・ツバメ・イワツバメ・キセキレイ・セグロセキレイ・ヒヨドリ・モズ・ウグイス・エナガ・ヒガラ・ヤマガラ・シジウカラ・メジロ・ホオジロ・スズメ・カケス・ハシボソガラス・ハシブトガラス

早春の頃

ノスリ・キジバト・ヒヨドリ・モズ・ルリビタキ・ジョウビタキ・シロハラ・ツグミ・ヤマガラ・シジウカラ・メジロ・ホオジロ・カシラダカ・アオジ・カワラヒワ・イカル・ウソ・スズメ・ムクドリ・カケス・ハシボソガラス・ハシブトガラス

あし

- ・行き JR御殿場線松田駅／小田急新松田駅 箱根登山鉄道バス 地蔵堂
- 行き 矢倉沢下車
- ・帰り 地蔵堂バス停 箱根登山鉄道バス 小田急新松田駅行き
- ・交通機関問い合わせ先：ページ 117 参照